

# 抹茶生産今年550トン超へ

## 全国2位射程に

静岡県の抹茶生産量が今年、県が目標としている550トンを超えることが確実となった。100ト近い増産が見込めるため、都道府県別生産量で現在の全国3位から2位への浮上が射程に入ってきた。海外での抹茶人気を受けて、生産拡大や新規生産に乗り出す動きが加速している。県も転作を含めた支援策で後押ししている。

茶の有機栽培を手掛けとなる「てん茶」の生産者葉っぱ伊島園（藤枝）を始めた。島田市では若手は今年、抹茶の原料 手農家がグループでてん

## 県内、100ト近く増産 海外で人気高まる

茶生産の株式会社「Matcha Organica Japan」を昨年末に設立した。無農薬茶の輸出を手掛ける流通サービス（菊川市）も生産を拡大している。

静岡県のてん茶生産量は2016年で480ト（県推計）と、京都府の約1000ト、愛知県の500ト強に次ぐ全国3位だった。今年の県内てん茶の増産量は100ト近くになるとみられる。京都や愛知は生産拡大の余地が小さいため、愛知を抜いて2位に浮上する可能性が高くなっている。

県も品種転換で国の奨励補助金を活用して、抹茶生産を支援している。抹茶に適している「つゆひかり」「おくみどり」などへの転換が主流となっている。

生産拡大の背景には抹茶需要の拡大がある。「今年海外からの抹茶の注文が毎月増えている状態」と米国に現地法人を持つ杉本製茶（島田市）の杉本博行社長は語る。抹茶は一般的に単価が高い。「海外の需要家はより高級な日本の抹茶を求めている」（杉本社長）こと、農家の生産意欲を高めている。

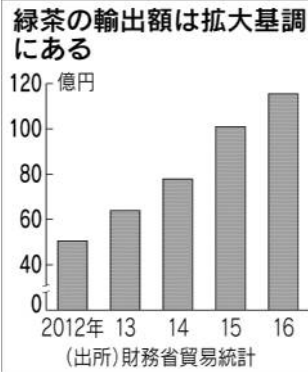
「茶どころ静岡」といっても、県内では高齢化で輸出量はほぼ横ばいの4100トだった。1キロだ。輸出をにらんだ意欲

「茶どころ静岡」といっても、県内では高齢化で輸出量はほぼ横ばいの4100トだった。1キロだ。輸出をにらんだ意欲

的な生産農家と茶商としての結果を出すことが静岡の茶産業に求められている。



抹茶用の茶は一定期間、覆いをする必要がある、手間がかかる



抹茶用の茶は一定期間、覆いをする必要がある、手間がかかる

生産拡大の背景には抹茶

抹茶に適している「つゆひかり」「おくみどり」などへの転換が主流となっている。

的な生産農家と茶商としての結果を出すことが静岡の茶産業に求められている。